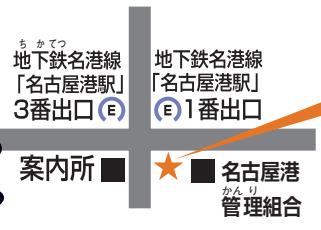


奥田助七郎のかつやく

名古屋港を大きな船が入れる港にするには、助七郎のどんなかつやくがあったのだろう。



1

多くの人々の反対

税金を海にすてている
ようなものだ。港づくり
を中止すべきだ。



今からおよそ120年前、熱田の港は水深
が浅く、大きな船が入ることができない不
便な港でした。そこで、港をつくる工事が
始まりました。しかし、当時は港づくりの大
切さを知る人が少なく、多くの人々が反対
をしました。

3

うつたえる助七郎

しょう来有望な港へ一番乗りを
するのは名譽なこと。
あなたが船を案内してくれるな
ら、喜んで行きましょう。



助七郎は、「ろせつた丸」の船長に直接
うつたえました。船長は、長年の夢であった
助七郎の願いをこころよく聞き入れてくれ
たのでした。

2

あきらめない助七郎

「ろせつた丸」を
名古屋によりたい。
せきにんは、
わたしがもちます。



「ろせつた丸」とは、全国の港を回る“動く
博らん会場”とよばれた船です。助七郎はこ
の船を名古屋によんで大きな港をつくる大
切さを分かってもらおうと考え、主さい者に
お願ひをしましたが、「小さな船さえ入った
ことのない港に『ろせつた丸』を入港させる
なんてだめだ」と言われました。しかし、助七郎
は決してあきらめませんでした。

4

「ろせつた丸」入港



明治39年(1906年)9月29日、「ろせつた丸」
は、無事に港に入ることができました。十
数万の人々は船で運ばれてきた世界の工
業製品を見て、喜びの声をあげました。博
らん会は大成功となり、これをきっかけに
多くの人々が港づくりに賛成するよう
になりました。

奥田助七郎らの努力が実り、名古屋港は明治40年(1907年)に開港しました。
今では、わが国を代表する貿易港として、地いきの産業やわたしたちのくらし
をささえています。

名古屋港のあゆみ

1906年
(明治39年)

●「ろせつた丸」が来る

1907年
(明治40年)

●名古屋港のはじまり

100年前
1936年
(昭和11年)

●中央ふ頭、東ふ頭ができる
(現在のガーデンふ頭)

70年前
1951年
(昭和26年)

●名古屋港管理組合がつくられる

1959年
(昭和34年)

●伊勢湾台風によって大きな被害を受ける

60年前
1961年
(昭和36年)

●せい鐵工場の進出をきっかけに産業施設
ができる

50年前
1964年
(昭和39年)

●高しお防波堤ができる

40年前
1972年
(昭和47年)

●本格的なコンテナふ頭ができる

30年前
1981年
(昭和56年)

●ガーデンふ頭ができる

1984年
(昭和59年)

●名古屋港ポートビル・名古屋海洋博物館が
できる

30年前
1992年
(平成4年)

●名古屋港水族館ができる

1995年
(平成7年)

●名古屋港シートレインランドができる

2001年
(平成13年)

●名港トリトン(名港三大橋)ができる

20年前
2002年
(平成14年)

●海棲ほにゅう類を飼育できる水そう
をもった名古屋港水族館北館が
できる

10年前
2005年
(平成17年)

●藤前干潟がラムサール条約に登録
される

現在
2007年
(平成19年)

●開港100周年をむかえる

10年前
2017年
(平成29年)

●レゴランド®・ジャパンができる



▲ できたころの名古屋港（現在のガーデンふ頭）



▲ 伊勢湾台風で陸に乗り上げた船



▲ 名港トリトン



▲ 飛島ふ頭南側コンテナターミナル

名古屋港は開港後も
う
埋め立てをくり返して
大きくなっています。

